

平成23年度第4回日出町生活交通確保維持協議会会議録

(1) 日 時 平成23年9月22日(木) 13:55～14:55  
 場 所 日出町役場 新館3階 332会議室

(2) 出席者 堀田協議会会長・・・日出町  
 土井協議会副会長・・・日出町区長会  
 合田委員・・・日出町  
 河野委員・・・日出町  
 伊豆委員・・・日出町タクシー協会  
 漢委員(代理:赤嶺様)・・・大分県タクシー協会  
 天野委員・・・大分県別府土木事務所  
 宇都宮委員・・・日出警察署  
 外西委員、竹本アドバイザー・・・九州運輸局大分運輸支局  
 横松委員・・・大分県東部振興局  
 垣迫委員・・・日出町社会福祉協議会  
 財前委員・・・国東観光バス(株)杵築営業所  
 扇谷委員(欠席)・・・大分県バス協会  
 清水委員(欠席)・・・国東観光バス(株)  
 事務局 越智事務局長、井川、高橋、西原  
 その他 株式会社地域科学研究所(青木、堺)

(3) 議事要旨

平成23年度第4回日出町生活交通確保維持協議会開始(13:55)	
井川事務局長	定刻より5分早く協議会開始。開会あいさつをお願いします。
1. 開会あいさつ	
越智事務局長	前回の協議会で決まったとおり、本日の協議会ではアンケートの内容について審議すると説明し、第4回日出町生活交通確保維持協議会の開会あいさつをする。
2. 会長あいさつ	
堀田会長	協議会出席へのお礼を述べた後、事前配布したアンケートの項目についての意見を委員からもらっている旨を告げ、その内容についての審議をお願いします。 と、会長としてのあいさつ。
井川事務局長	配布資料の確認を行なった後、協議会規約10条により、会長が議長

	となることを報告し、これからの進行を議長が行うと告げる。
<b>3. 議事 (1) 経過報告について</b>	
堀田会長	議事(1)の経過報告について、前回から今回までの経過の説明を事務局に求める。
井川事務局員	8月24日にプロポーザル審査会を行い、協議会で地域科学研究所の承認をもらったと説明。8月25日に業務委託契約を締結し、8月26日から来年の3月30日までを工期にしていると告げる。配布している交付決定通知書についても触れ、当初申請した金額の620万円で交付決定されていることを報告する。
堀田会長	意見がなければ、次に進む旨を告げる。
意見なし 「はい」という多数の声をもって承認	
<b>3. 議事 (2) アンケート項目等について</b>	
堀田会長	事務局から委員に対してアンケートを事前に配布したこと、そのアンケートに対する意見を委員等から出してもらったこと、その意見を反映した資料をこの協議会で配っていることを説明し、そのアンケート全般についての説明を事務局に求める。
井川事務局員	会議録署名委員の任命の件について発言する。
堀田会長	会議録署名委員の任命を行なっていなかったことを謝罪し、会議録の署名委員の案があるかを事務局に確認する。
井川事務局員	署名委員は順番でお願いしていることを告げ、日出警察署の宇都宮浩志氏と日出町タクシー協会の伊豆道恵氏に署名委員をお願いしたい、という案を発表する。
堀田会長	会議録署名委員について、宇都宮氏と伊豆氏に再度お願いし、アンケート項目の説明を事務局に求める。
井川事務局員	9月2日にアンケート案を委員へ送付し、出された意見を反映したものが資料①～⑤だと説明。その内容については、業務委託会社の地域科学研究所が行う旨を告げる。
地域科学研究所(堺)	自己紹介をした後、資料に沿って説明する旨を告げる。 ●資料① 交通空白地域のヒヤリング調査について、交通空白地域に住んでいる人を対象とし、調査員による聞き取り調査を行う。目的として、日常の移動をどのようにしているのかを調査することで地域の状況を確認し、どのような公共交通が必要なのかを検討するための材料とする。現時点では、GIS(地理情報システム)を使い、住民基本台帳データを活用して交通空白地域の特定を行いたいと考えている。 内容について、問1から問6が属性調査となっていて、アンケート対

象者の性別、年齢、住所、職業、世帯構成、運転免許の保有状況等を聞くようにしている。属性調査の内容については、アンケート結果を整理し易くするよう、他の調査とできるだけ同じ内容の設問になるようにしている。問7以降は、外出状況を尋ねる設問となっており、移動手段や外出目的、外出頻度、よく利用する施設等の調査を行う。問12以降は、必要な交通サービスは何かを聞く設問となっており、それが実施されたときに地区住民が利用するかということを調査するようにしている。

●資料②

公共交通利用者ヒヤリングについて、路線バス、日出町が運行しているコミュニティバス、公共交通機関の利用者に対し、調査員が直接聞き取り調査を行うことにしている。現在公共交通機関を利用している人に、どのような利用をしているのかという現状と満足している点、困っている点などについて調査するようにしている。この調査は、事業者ヒヤリングの調査結果や現況調査の結果から公共交通を利用する人が集まる場所を選定して実施しようと考えている。

アンケート内容について、問1から問6は属性調査となっており、問7以降はその方が今使っている公共交通の利用状況を聞く設問となっている。どういった目的での利用で頻度はどれくらいかを調査し、調査日に利用しているバス停はどこなのかを聞き取りする。自宅から一番近いバス停までの距離や他の乗り物を利用するかどうかを聞くようにしている。問13以降は、現状の公共交通機関に対する要望を聞くようにしており、新しい乗合バスについての考え方も聞くようにしている。

●資料③

町民アンケートについて、郵送による調査を予定している。日出町在住の18歳以上の男女から無作為に抽出し、2,600人に郵送するようにしている。町民の日常の移動方法や公共交通に対する考え方などについて、公共交通の利用の有無に関わらず調査をすることになっている。

アンケート用紙について、最初のページがあいさつ文になっており、次のページに日出町の公共交通の現状説明と用語解説を記載している。設問の問1から問7は、回答者の属性調査となっている。問8からは、公共交通を全く使わない人も対象としており、自家用車を持っている人には家族の送迎の状況などの調査を行う。外出の目的（通勤・通学、通院・介護、日常の買い物、趣味・学習、余暇・レジャー）

ごとに頻度、目的地、交通手段の調査を行うようにしており、あまり負担にならないような設問数にしている。問11以降は、町内の民間路線バス、鉄道、タクシーの利用状況についての質問になっており、問27以降は公共交通を今後利用するかどうかについて聞くようにしている。問29以降については、今後の公共交通のあり方について、選択式で聞くことにしている。

●資料④

JR利用者ヒヤリングについて、日出町内のJR駅を利用している方を対象としており、調査員による聞き取り調査を行う。JR駅を利用している人がどこにどのように移動しているか、駅までの交通手段は何か、車で来た場合の駐車場所などについて、利用者の多い場谷駅を中心に4つの駅で調査を行うよう考えている。

調査票について、問1から問6は属性の調査になっており、問7からは実際に利用している駅の場所や利用状況を聞くようにしている。問13以降は、JRを利用する主な目的や利用頻度、平日・休日の別などを聞き、問17で改善してほしい要望調査を行う。

●資料⑤

運行事業者ヒヤリングについて、公共交通の運行事業者（バス3社、タクシー3社）を対象とし、調査員による聞き取り調査を行う。目的として、町内で運行しているバス、タクシー等の事務所で現状や将来展望の調査を行うことで、日出町の公共交通体系をよりよくするための協力体制を構築するきっかけにしたいと考えている。ヒヤリングの際に、月ごとに利用者の増減があるかという質問や別表で約3年分の月別の利用状況の資料をいただきたいと考えている。

調査票について、問1から問5はその事業所の状況の調査で、営業エリアや保有している車両台数、運転手の人数などを聞くようにしている。問6以降に関しては、その公共交通機関を利用している方の移動パターンや利用する時間帯、年齢層や性別などを聞く調査になっている。問16に関しては、運行エリアに見られる特徴などの調査を行う。問18、19に関しては、観光客の利用があるかを聞き、問22では他の自治体と比較して感じる公共交通における日出町独自の特性を聞くようにしている。問23以降に関しては、生活交通ネットワーク計画を策定後、運行业務受託等の協力ができるかということや今後の公共交通のあり方について要望調査を行う。

以上で、資料①から資料⑤の各調査についての内容説明を終えると告げる。

堀田会長	株式会社地域科学研究所にお礼を述べる。
株式会社地域科学研究所 (堺)	一点、追加説明として、小学校・幼稚園・保育園における公共交通の利用状況について、資料の中には入れていないが別の形で調査を行う方向で検討していると説明。公共交通機関の年間利用状況や1回当たりの乗車人数、利用目的等の調査を行いたいと考えていると告げる。
堀田会長	株式会社地域科学研究所にお礼を述べ、資料①から⑤までと追加の説明について、質問、意見を募る。
財前委員	資料③の問28のコミュニティバス・デマンドタクシーの料金について、ここに書いている料金は何かを参考にして設定したものか、と質問。 杵築市、国東市のコミュニティバスの料金は100円、豊後高田市のコミュニティバスのような乗合タクシーの料金が200円、県南の方は分からないが、近隣自治体の金額から考えると100円か200円なのに、選択肢に200円がないので、どこか違う自治体の金額を出したのかと思ったが、これだと100円か300円しか選べないということになってしまうので、隣接の市町村の金額も考慮して選択肢を設けた方が良くと思って質問した、と補足説明を行う。
堀田会長	質問に対し、事務局に答弁を求める。
高橋事務局員	質問に対するお礼を述べ、県内では100円という自治体が多いが、料金設定の見直しを行っている自治体や300円という自治体もあることに触れた後、近隣自治体との兼ね合いも考えて選択肢に200円の項目を追加して対応したい、と回答する。
堀田会長	今の回答に対し、200円の項目を追加というのは、コミュニティバスとデマンドタクシーの両方に対してか、と事務局に確認。
事務局一同	はい、と回答。
外西委員	50円という選択肢は必要か。出す方も50円という金額を出しにくいし、50円という金額設定をするところも少ないと思うので、と質問。
西原事務局員	50円という選択肢の理由について、現在南端地区を走らせているコミュニティバスが無料で運行しており、今後負担をお願いするようになる場合を踏まえ、少しでも選択肢に幅があった方が良くと思って設定した、と回答。
財前委員	合併前の大田村では、役場がハイエースを使い、役場までの送迎バスの運行を週に何回か行っていた。今現在は杵築市になり、循環バスで100円取るようになったが、波多方地区や小野地区から来る送迎バスは今のところ無料で運行している。これによる苦情があるかどうか

	は分からないが、大田地区ではこういった現状もある、と発言。
堀田会長	他に質問、意見を募る。
漢委員代理 (赤嶺)	資料①、②、④のヒヤリング調査について、調査対象の件数等が具体的に分かれば教えてほしい、と質問。
株式会社地域 科学研究所 (堺)	交通空白地域のヒヤリング調査については、空白地域の特定ができていないため、現時点で具体的な件数を答えるのは難しい。まずは10月後半以降の特定作業を行いたいと考えている、と回答。
漢委員代理 (赤嶺)	件数は分からないか、と質問。
株式会社地域 科学研究所 (堺)	これから交通空白地域の選定に取り掛かるが、路線バスのバス停の位置や町民の居住場所を踏まえて、特定を行っていきたいと考えている、と回答。
漢委員代理 (赤嶺)	交通空白地域の居住者全員に対してヒヤリング調査は行わないのか、と質問。
株式会社地域 科学研究所 (堺)	全員ではないが、実施方法はいろいろあるので、グループディスカッションという形でその地区の方全員に案内を出すやり方など、その辺は事務局と打ち合わせをしながら行いたいと考えている、と回答。
漢委員代理 (赤嶺)	グループディスカッションという形になった場合、この調査票は使用できないのでは、と質問。
株式会社地域 科学研究所 (堺)	そういったことはないが、年齢や世帯の状況は必ず把握したいと考えており、町民の間に調査員が入ることでそういったことの聞き取りを行っていくようになると思う。地区に赴いてヒヤリング調査をするという説明をしたが、地区の状況等を踏まえて調査を実施したいと考えている、と回答。
漢委員代理 (赤嶺)	資料②と④についてはどうなのか、と発言。
株式会社地域 科学研究所 (堺)	資料②の公共交通利用者ヒヤリングについて、現時点で調査日が決まっていないが、10月中には実施できると考えている。サンプル数については確定していないが、全ての公共交通機関で調査を行うことができるよう実施したいと考えている。具体的な調査人数については、調査実施時の状況にもよると考えている、と回答。
漢委員代理 (赤嶺)	委託費用の兼ね合いもあるので無理を言うつもりはないが、気になった点として、他のこういった協議会等で調査を行った場合、調査する曜日や時間帯で偏りが見られるように思われる。例えば、コンサルのアンケート調査実施費用が一日分しかないという理由で、月曜日だけ調査を行った場合、火曜日の方が病院を利用する高齢者が多かったり

	して、その資料の方が有効だったというような形になると、調査結果に整合性がなくなる。できるだけそういった点も考慮してデータ収集を行ってほしいと思い、どういった調査方法で実施するのかを質問した、と発言。
株式会社地域 科学研究所 (堺)	具体的なスケジュールを提示することができず申し訳ないが、その点を踏まえたうえで調査実施スケジュールを組み立てていきたい、と回答。
堀田会長	私もどのくらいの方に調査するのかを聞いたかったと告げ、他の自治体で調査を実施した具体的な件数(資料②の調査は何件等)について、持っている資料などで分かれば教えてほしい、と発言。
株式会社地域 科学研究所 (堺)	手持ちの資料はないが、交通空白地域の調査に関しては、自治体からの要望で個別訪問は控えてほしいと言われたことがあり、道に出ている人や畑仕事をしている人に対してアンケートを実施したが、サンプル数があまり取れなかったことがある。また、区長等をお願いしてグループディスカッションという形で実施したこともあり、十数件程度のサンプルを得ることができた調査がある。どちらの調査方法が良いかは自治体によって変わってくると思うので、事務局と協議しながら実施したい、と回答。
堀田会長	事務局に聞きたいと前置きしたうえで、資料①の交通空白地域ヒヤリングについて、該当する行政区がどれくらいあるか把握しているか、と質問。
越智事務局長	交通空白地域の場所や規模、必要な調査件数、JR等における曜日・時間の偏りなどを踏まえた調査の実施方法について、地域科学と詰めていきたいと考えている。交通空白地域に関しては、住基データをもとに地域を特定し、それから検討したいと考えている。大まかな地域は推測できるが、結果データをもとに判断したいので、現時点での行政区名の発表は控えたい、と回答。
堀田会長	他に質問、意見を募る。
横松委員	交通空白地域の定義に関して、バス路線が通っていても、一日に数便しか運行していないような場合(買い物に行く時間にバスが通っていないようなとき)などは、空白地域にならないのか、と質問。
株式会社地域 科学研究所 (堺)	基本的な考え方として、バス停があれば、そこから500メートルか300メートルというところを空白地域の定義としており、バスの運行本数までは加味していない、と回答。
横松委員	実際、買い物に行きたい時間帯に、バスが通っていないというようなどんなに便利が悪い場合であっても、『空白』ではないので交通空白

	地域にはならないのか、と再度確認。
株式会社地域 科学研究所 (堺)	『空白』ではないというところから空白地域という定義にあてはめに くい、と回答。
堀田会長	他に質問、意見を募る。
外西委員	資料③の住民アンケートにおいて、問13でバス停までの時間を聞いて いるが、資料④のJR利用者ヒヤリングの間8では距離を聞く質問 になっている。その違いは何か、と質問。お年寄りに「駅まで何キロ ありますか」と聞いても分からないし、同じ距離でも地形(土地の起 伏)などで所要時間が変わってくるので、距離よりも時間の方が良い と思うし、回答者の年齢層と所要時間で大体の距離は計算できる、と 補足説明。
堀田会長	事務局、地域科学研究所に対して回答を求める。
高橋事務局員	質問に対するお礼を述べた後、バス停については細かいデータを収集 するために時間にし、JRに関しては車での移動のことを想定して距 離にしているが、この質問の聞き方については検討させてほしい、と 回答。
外西委員	距離が分かるのが一番だが、「駅まで何キロありますか」と聞かれて みんなが分かるかどうか、と発言。
高橋事務局員	車等を使い、電車を利用する人もいるため、所要時間というひと くりにするべきではないと考えていたが、この内容について検討さ せてほしい、と回答。
漢委員代理 (赤嶺)	資料⑤の運行事業者ヒヤリングについて、こういった形の地域交通が できた場合に、事業者に与える影響を考えられる範囲で追加聞き取り をしてほしい。特にタクシーは交通空白地域を収入の糧の一部にして おり、そこに別の交通体系ができるとかなりの影響があると考えられ るので、ヒヤリングの中でそういった部分の聞き取りもしてほしい、 と発言。
越智事務局長	資料⑤の中に、新しい地域交通ができた場合に与える影響というよう な項目を入れて調査を行いたい、と回答。
堀田会長	2600人のアンケートの発送は、10月いつ頃の予定か、と質問。
西原事務局員	資料③の住民アンケートの発送は、10月5日または6日を予定して いる、と回答。
堀田会長	資料③については、10月上旬に発送予定ということを再度告げ、他 に質問、意見を募る。
竹本アドバイザー	資料③の住民アンケート調査について、2600人を無作為に選んで

ザー	統計的に処理するといこうとで、サンプル的には400以上あると統計資料として使える数値になると理解しているが、実際の回収率としてどのくらいを見込んでいるのか、と質問。
高橋事務局員	発送を2600人として、回収率を4割で見込んでいる、と説明。それで統計学的にも信用できる数値を抽出できるようにしている、と回答。
堀田会長	アンケートというものをよく知らないが、4割という数字（回収率）は良いのか、6割くらい必要なのでは、と質問。
高橋事務局員	役場でいろいろなアンケート調査を行っているが、回収率は大体3割5分くらいになっている。30%から40%をちょっと超えるくらいまでが妥当な線だと考えており、それから逆算して2600人という数字を出している、と回答。
堀田会長	資料がなければ構わないが、アンケート対象者になっている18歳以上の町民はどれくらいいるのか、と質問。
越智事務局長	有権者が2万ちょっとなので、18歳以上で考えると2万2千か3千くらいだと思う、と回答。
堀田会長	2万2～3千の18歳以上の町民がいて、2600人を無作為で抽出し、4割の回収を見込んだときに、約1000人からの回答で良いのかどうかは分からないが、専門家がみれば統計学的に信用できる数値を算出できるということなのか、と質問。
株式会社地域科学研究所 (堺)	統計学的にいえば、2万人でも5万人でも1000ちょっとの標本数が回収できれば信用できる数値を算出できるとされている。今回は誤差を3%程度で考えているが、例えば「公共交通を利用しますか」という質問に対し、「はい」という回答者が50%いた場合、町民全体の中に47%～53%の「はい」の方がいるという計算になる。日出町においても、1040人程度の標本数があれば、標準の誤差の中で回答が見込めると考えている。実際に抽出したときの男女比や年齢構成は、データの中で修正できると考えている、と回答。
堀田会長	他に質問、意見を募る。
竹本アドバイザー	無作為の2600人を選んだときに、地域の偏り等は考慮するのか、と質問。
事務局一同	はい、と回答。
堀田会長	他に質問、意見を募る。
河野委員	年齢の偏りについて、健康増進課で介護保険のアンケート調査を実施した際、回収率が75%あった。そのことから考えると、65歳の回収率が70%程度いく可能性があるのでは、若い方が10%や20%に

	なることも想定される。そういった場合、特定の年代の回答が多いという状況になるので、どこかに比重を合わせないと偏りが生じるので正確な調査結果が把握できないのでは、と質問。
株式会社地域 科学研究所 (堺)	そのあたりについては配慮したい、と回答。
越智事務局長	高齢化社会を迎え、公共交通のあり方という問題もあるので、比重の問題については精査してアンケートを実施したい、と回答。
堀田会長	事務局に対し、地域科学と打ち合わせをしてアンケートを実施するよう告げ、意見がなければ、次に進む旨を告げる。
意見なし 「はい」という多数の声をもって承認	
<b>3. 議事 (3) その他について</b>	
堀田会長	議事(3)のその他について、何かあるか事務局に確認。
井川事務局長	スケジュールについて、全町的にアンケートを行うということを9月中旬の回覧でお知らせしているので、この協議会で出た貴重な意見を地域科学と打ち合わせをしながらアンケートの実施に繋げたいと説明。今後は、住基データから2600人を無作為に抽出し、資料③の発送を10月5日か6日に行い、その他のアンケートについては、10月いっぱいぐらいに実施できるよう話を進めていきたいと告げ、委員への協力をお願いする。  次回の協議会の開催について、アンケートとヒヤリングの終了を10月末に予定しており、その後で結果集計等を行うようにしているが、若干予定がずれ込むこともあり得るので、アンケート結果を踏まえた形(中間報告)での協議会については、11月下旬頃に開催したいと考えていると告げ、委員への協力をお願いする。
堀田会長	次の協議会は11月下旬頃に開催したいということに再度触れ、事務局から他にないかを確認。
井川事務局長	ありません、と回答。
堀田会長	委員から質問、意見を募る。
意見なし 「はい」という多数の声をもって承認	
堀田会長	議事について終わることを告げ、気づいた点等があれば事務局まで連絡をくれるようお願いし、全体にお礼を述べる。
井川事務局長	議長にお礼を述べ、今日の資料で気づいた点があれば事務局まで連絡をくれるようお願いし、日程を進める。
<b>4. 閉会あいさつ</b>	
越智事務局長	委員にお礼を述べた後、この協議会で出た貴重な意見をもとにアンケ

	ート調査を進めていき、次回の協議会で報告したいと告げ、第4回日出町生活交通確保維持協議会の閉会あいさつをする。
--	---

平成23年度第4回日出町生活交通確保維持協議会終了（14：55）

平成23年度第4回日出町生活交通確保維持協議会の概要を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名、捺印する。

平成23年11月 8日

平成23年度第4回日出町生活交通確保維持協議会

会議録署名委員 伊 豆 道 恵 ⑩

会議録署名委員 宇 都 宮 浩 志 ⑩